

国 語

注 意

1. 問題は全部で20ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 日本文学科受験者は問題四も解答すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 間 に 答 え よ 。

村を歩いていて、それは石に特別な興味をいだいているわたしだからそう思うのかも知れないが、日本民俗学という学問がその出発にあたって、山でもなければ木でもない、石をえらんだことには、たしかに何か偶然以上のものがある。

しかし、いざ石がよびさまざま感動を正確な言葉でとらえようとすると、わたしたちは打ち克ちがたい困難に出会うというの
も、また事実である。その感動といおうかその感覚は身体を通りぬけていくヴァイブレーションのようなものとして、もともと
言葉の構造とはあいられない異質な体験の層にぞくしているの、わたしたちにせいぜいできることといったら適切な修飾語、
適切な隠^{メタファー} 喩をみつけることぐらいなのかも知れない。そのため、石との交感の場は、同時に言葉^a 意味的なものとのせめぎあ
いの場となってきた。

ここでは形状石と呼ばれる不思議な石の場合について考えてみることにしよう。石に生物の姿を認め、石と生物との間の隠れ
た関係がみいだされた時、亀石、蛇石、牛石、ピク石などの名前をもつ形状石がうまれる。この場合、類比(アナロジー)の働き
のために、生物/非生物の境が越えられてしまい、ほとんど神聖感に近い不思議な感情がよびさまされるのだが、この感情の
よってきたところが、掛け言葉という言葉あそびの場合によく似ているといったら、多少唐突にすぎるだろうか。じつさい、
掛け言葉は、ある言葉が表の意味のほかにもう一つ別の、あるいは複数の裏の意味をもつように仕組まれている。そこで、ふだ
んはかけ離れた場所に置かれて、とうてい両立しがたいと思われた意味の場が不意に結合されてしまい、その結果、表の意味は
^b スツコケてとたんに言葉の世界は遊びにみちた多義的空間に変貌してしまうのである。掛け言葉の場合、離れていたものを無媒
介的に結びつける「隠れた関係」は、音の共通性によっている。これとよく似たプロセスで、形のなかに潜む隠れた関係をみいだ
そうという誘惑が石にふりむけられる時、不意に生き物というカテゴリーに接触したことで、石は動物みたいに身をよじり、う
ねりはじめたような奇妙な感動をあたえるようになる。

しかし、この遊びめいた精神の仕組みは、宗教的感性へのとば口でもある。それはこんな話によく示されている。津軽を旅していた民俗学者の早川孝太郎は、龍飛岬で二つの小石を拾うが、それはこの地で聞いたイタコの話がそう促したからであった。「あの地方に今ある巫女達^{いたこ}が、その信仰に入る過程として、浜の波打際などを歩いて居て或石に邂逅^{dかいこう}する。数ある中には特に大とか猫又は猿などの貌を現わして居た物がある。それを獲た次の瞬間から精神状態も異常を加えてくる。一方から云うと石が喚びかけて居たのである」。巫女は靈界の声を生きている者たちに伝えることのできる特別な能力にめぐまれている。その入巫(イニシエーション)の決定的瞬間が、小石との邂逅によってもたらされるというのである。ある小石のなかに、犬や猫や猿など生命あるものの姿が見えた、と思うその瞬間から、イタコにはこの世界が常の人に見えるのとは違った相貌でたちあらわれ、物と物、現象と現象、物と現象を結びあわせている見えない糸のようなものが感知できるようになって、物や現象を分け隔てた上で統合するという常のありようとは異なる、生命の交感にみちた別の世界が開けてくるのであろう。

知覚や思考の習いがぐらつく意識のハクメイの領域は、また説話への欲望がめざめる地点でもある。野本寛一が『石の民俗』で紹介している清水市牛ヶ谷桃林寺の裏手にある牛石には、次のような五つの異なる伝承が語られているそうだ。その一つは、桃林寺の伝える縁起譚である。四百有余年以前、駿州道日山に修行中の道日禅師のもとに一匹の黒い牡牛が現われ、禅師もこの牛を愛した。この牛が後年死んだ時、村人はこの牛を山を越えた葬地にはこぼうとするが、途中で余りに重くなったためどうすることもできず、その地に葬った。これが現在の桃林寺のある土地である、というもの。この話などは、眼の前の石に実現されている生命あるものとなないものの共存(共時的共存とも言おうか)を、生きていた牛が死んで石に化すという時間にとつた論理に組みかえなおして、すこしでも理解できる方へ近づけようとしている。もう一つの伝承はほぼ前の話と重なり、後半部に輪廻譚^{りんごんたん}や法力譚などをつけて、いつそう合理的な話にしたてている。三つめの話では「昔、一石屋がこの石に鑿^{たがね}を入れたら血がほとほしり出たので、祟りを恐れてお宮を作り、牛石として祀った」という、牛石を見た感動をさらに具体的なイメージにおしひるげたものになっている。四つめの伝承によると、「この牛石は、梶原景時の墓石を運ぶ時死んだ牛がなったものである」といい、五つめのものは「里老伝、此石は雌石なり、梅ヶ谷牛欄寺の牛石は雄牛なりと、されど何なる縁故ありて、此雌雄の牛石あり」という

雌雄対石譚である。このうち、一つめ、二つめ、四つめの伝承はある種の論理性のうちに知覚を回収しようとしているようにみ
うけられるが、それに対して三つめ、五つめの話では

h

説話への衝動は、いずれの

場合も知覚の遊走性を意味世界に固定しようという方向に働いている。

ここからさらに、石が呼びおこすイメージの運動が、社会的にも重要な意味世界の体系に回収される、つまり善と悪、生と
死、豊饒と i、内と外、自然と文化など二元論的思考のあやなす文化機構のうちに捕獲されるようになる過程を考える
ことができるようになる。

(中沢新一『チベットのモーツァルト』による)

問一 傍線部 a「せめぎあいの場」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄

番号は 1。

- ① 多くの石がそれぞれの個性を持って存在し、互いに拮抗していることを、象徴的な形で示している。
- ② 石を獲得するためには歴史的に多くの戦闘が行われてきたので、そのことが大きな影響を与えてきた。
- ③ 石を得ることによって、その石との対話が発生してくるという側面があり、その石との対話によって多くのものがもた
らされた。
- ④ 多くの石が存在していることの比喩であるので、このような表現が生まれてきている。
- ⑤ 石のもたらす感動は、言葉では表現しにくいものであるだけに、それを言語で表現することは、複数の要因を考慮しな
くてはならない。

問二 傍線部 b「ブツコケテ」とあるが、ここではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は 2。

- ① 二つに分裂して
- ② 表面から消え去って
- ③ 強く結合して
- ④ 変化して音となり
- ⑤ 異なった世界に没入して

問三 傍線部 c「宗教的感性」とあるが、これとほぼ同様な意味を表す最適な語句をこれよりも前の文中から探し、十字以上十五字以内で抜き出せ。解答用紙(その1)を使用。

問四 傍線部 d「邂逅かいこう」とは一般的にはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答番号欄

は 3。

- ① 集中
- ② 宥和
- ③ 出合い
- ④ 結合
- ⑤ 現れ

問五 傍線部 e「物や現象を分け隔てた上で統合する」とはどういうことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

- ① 多くの事柄をよく理解した上で行動に移す。
- ② イタコの知覚と通常の人の知覚を区別する。
- ③ ひとつの物体を部分の集合として認識する。
- ④ 現実世界を分析してから改めて結合する。
- ⑤ 犬や猫や猿などが石の中に見える。

問六 傍線部 f「ハクメイ」を適切な漢字で記せ。解答用紙(その1)を使用。

問七 傍線部 g「輪廻譚」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **5**。

- ① 因果応報の理についての教義
- ② 別の世への生まれ変わりに関する説話
- ③ 大きなものが回転する状態の解釈
- ④ 仏法が広まることへの期待
- ⑤ 車で物を運搬することの説明

問八 空欄 **h** に入る適切な文はどれか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

6。

- ① 知覚は人間化されたイメージや意味のなかに組み入れられている。
- ② 知覚は近代的な装いによって覆い隠されている。
- ③ 知覚は動物の鳴き声などを連想させるものとなっている。
- ④ 知覚は多くの要素のうちの一つに過ぎないものとして描かれている。
- ⑤ 知覚は理解しがたいものとして無視されている。

問九 空欄

- ① 未 遂
② 欠 落
③ 不 毛
④ 衰 弱
⑤ 微 細

i

に入るべき単語は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

7。

二次の文章は、都を旅立つた作者が鎌倉に滞在しているところから始まる。よく読んで、後の問に答えよ。

やうやう年の暮れにもなりゆけば、今年aは善光寺のあらましも、かなはでやみぬと、くちをしきに、心のほかにのみおぼえて過ぎゆくに、飯沼の新左衛門は歌をも詠み、すきものといふ名ありしゆゑにや、若林の二郎左衛門といふ者を使ひにて、たびたび呼びて、*つづつた続歌などすべきよし、ねんごろに申ししかば、1まかりたりしかば、思ひしよりも情けあるさまにて、度々寄り合ひて、連歌、歌など詠みてあそびはべりしほどに、師走になりて、川越の入道と申す者の跡なる尼の、2「武藏の国に川口といふ所へ下る。あれより、年返らば、善光寺へ参るべし」と言ふも、3たよりうれしき心地してまかりしかば、雪降り積もりて、分け行く道も見えぬに、鎌倉より二日にまかり着きぬ。b

前には、入間川とかや流れたる、向かへには岩淵の宿といひて、遊女どもの住みかあり。山といふものは、この国の内には見えぬ、はるばるとある武蔵野の萱が下折れ、霜枯れ果てである中を、分け過ぎたる住まひ、思ひやる都の隔たり行く住まひ、悲しさもあはれさも取り重ねたる年の暮れなり。

つらつらいにしへをかへりみれば、二歳の年、母には別れければ、その面影も知らず。やうやう人となりて、四つになりし4月二十日あまりにや、仙洞*に知られたてまつりて、御簡*たの列につらなりてよりこの方、かたじけなく君の恩言をうけたまはりて、身を立つるはかりごとをも知り、朝恩をもかぶりて、あまたの年月を経しかば、5一門の光ともなりもやすると、心の内のあらましも、dなどか思ひ寄らざるべきなれども、棄てて無為に入るならひ、定まれる世のことわりなれば、*さいいしちんぼうきんぎやうみ「妻子珍宝及王位、6命終時不随者」、思ひ捨てにし憂き世ぞかしと思へども、馴れ来し宮の内も恋しく、折々の御情けも忘れられたてまつらねば、事のたよりに、まづ言問ふ袖の涙のみぞ、色深くはべる。

雪さへかきくらし降り積もれば、ながめの未さへ道絶え果つる心地して、ながめたるに、主の尼君が方より、「雪の内、いかに」と申したりしかば、

思ひやれ憂きこと積もる白雪の跡なき庭に消えかへる身を

問ふにつらさの涙もろさも、人目あやしければ、忍びて、また年も返りぬ。

(『とはすがたり』による)

(注)

* 続歌：あらかじめ決められた歌題をくじ引きで分け、参加者が次々に詠みあう方式の歌。

* 萱が下折れ、霜枯れ果て：「霜枯れの萱が下折れとにかくに思ひ乱れて過ぐす頃かな」〔後拾遺集〕恋三・藤原惟規による。

* 仙洞：上皇のこと。ここでは、後深草院。

* 御簡の列につらなり：殿上を許され、当直するようになったこと。

* 恩言：情けあるいつくしみの言葉。

* 棄てて無為に入る：「三界の中を流転し、恩愛を断つことあたはず、恩を棄てて無為に入るは、真実に恩に報ゆといへり」という偈(仏教の教えや徳を讀える韻文)の一節。

* 妻子珍宝及王位、臨命終時不隨者：ある経文の一節。妻子も宝も王位も、臨終の時についてはこない、という意味。

問一 傍線部「まかりたりしかば」は、ここではどのような意味か。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 幕府に参上したところ
- ② 作者のもとへやってきたので
- ③ 続歌の集まりに出かけたところ
- ④ 宮中から退出してきた者なので
- ⑤ 都から遠い鎌倉に下ってきたので

問二 傍線部2「武蔵の国」とあるが、作者のいる鎌倉はこの国か。漢字で記せ。解答用紙(その1)を使用。

問三 傍線部3「たより」は、ここではどのような意味か。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

号は 9。

- ① 好意
- ② 機会
- ③ 親族
- ④ 伝言
- ⑤ 手紙

問四 傍線部4「長月」とは何月か。次の①～⑤から正しいものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 10。

- ① 一月
- ② 四月
- ③ 七月
- ④ 九月
- ⑤ 十一月

問五 傍線部5「二門の光ともなり」とは、ここではどのような意味と考えられるか。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 11。

- ① 院との間に皇子が生まれ、作者が国母となって、一門に繁栄をもたらすこと。
- ② 作者が女性としてめずらしく帝となって世の中を治め、一門が栄華を極めること。
- ③ 仏法に帰依した作者が、すぐれた尼となって人々に救いをもたらし、一門の名誉となること。
- ④ 宮中の女官である作者がめざましい働きをして宮中を盛り立て、一門の中で尊敬されること。
- ⑤ 作者が、宮仕えをしながら日記の作者として名声を博し、文芸に優れた一門の面目が立つこと。

問六 本文中の a、c、d の二重傍線部が、傍線部 6「ね」と同じ語である場合は①を、異なる語である場合は②をマークせよ。解答

欄番号は順に 12 13 14 15。

a やみぬ

b 見えぬ

c 着きぬ

d 思ひ寄せざる

問七 傍線部 7「跡なき庭」とは、どのような意味か。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

16。

① 人がやってきた足跡も見えないさびしい庭。

② 雪がすっかり消えはてて、すっきりとした庭。

③ 悲しい思いなどを少しも感じることはない庭。

④ かつて暮らしていた人の気配が感じられない庭。

⑤ 一時的に滞在していた自分がいなくなってしまう庭。

問八 この文章全体の内容をまとめたものとして最適なものを、次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 17。

① 東国の人々の醇朴なやさしさにふれ、貴族として気疲れの多かった都の生活に別れを告げ、出家者として仏道に専念することを願っている。

② 東国の人や風景に心引かれる一方、都での華やかな過去やなつかしい人々との思い出がよみがえり、これから先どのよう生きていくべきか迷っている。

③ 出家をして都から東国に旅に出た作者は、善光寺詣でをする人と巡り会い、うれしい気持ちでいるが、都で過ごした日々のもせつなく思い出している。

④ 東国の風景に心を慰められた作者は、都で過ごした俗世の日々を悔い、出家をして世を捨てた思いに従って、このまま諸国遍歴の旅に出ようと決意している。

⑤ 旅に出てみても、なじみのない東国では思いもよらないことを経験するばかりで辛いので、優雅な暮らしをしていた宮中での日々にもう一度戻りたいと思っている。

問九 『とはずがたり』と近い時代に、女性である阿仏尼が鎌倉に出かけた折に著した作品がある。それを、次の①～⑤から一つ選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

① 海道記

② 東関紀行

③ 無名草子

④ 更級日記

⑤ 十六夜日記

三 次の文章を読んで後の問に答えよ。

草木の染液から直接緑色を染めることはできない。この地上に繁茂する緑したたる植物群の中であつて、緑が染められないことは不思議である。植物染料の中でたった一つ、神は大切なものを忘れたのであろうか。

しかし、そうではない。¹より深い真実を私たちに伝えるために、神の仕組まれた謎ではないだろうか。久しい間、私はそう考へつづけてきた。

緑の色は直接出すことができないが、そのかわり、青と黄をかけ合せることによつて緑が得られる。

a、藍麁あらいがめに、刈

安・くちなし・きはだなどの植物で染めた黄色の糸を浸けると、緑が生れるのである。(Ⅰ)ほかの色は色が染まるというのに、緑のときだけはなぜか生れるといたくなる。みどり児の誕生、甕かみから上がつてきた緑色に思はずそういたくなるのはなぜだろうか。

やはり緑は生命と深いかわり合いをもっていると思う。²生命の尖端である。生きとし生けるものが、その生命をかぎりなくいとおしみ、一日も生の永かれと祈るにもかかわらず、生命は一刻一刻、死にむかつて時を刻んでいる。とどまることがない。その生命そのものを色であらわしたら、それが緑なのではないだろうか。(Ⅱ)

b 植物から葉っぱを絞つて緑の液が出て、それは刻々色を失つて、灰色がのこるばかりである。移ろいゆく生命の象徴こそ緑なのである。鉱物のように移ろいゆく生命のないものには、顔料・岩絵の具として白緑びやくろく・緑青などがある。

もう一つの不思議は、藍麁の中に白い糸をヒタすとはじめは茶がかった色であるが、竹の棒でキリキリと絞りあげて、手の力を抜いた瞬間、空気にふれた部分から、目のさめるようなエメラルド・グリーンに染め揚つてゆく。とみる間に目の前のエメラルド・グリーンは消えて、縹色はなが生れる。わずか数秒の間の変身である。(Ⅲ)あのひき揚げた瞬間の緑はどこに消え去るのだろうか。

A の緑は、**B** の縹色なのだろうか。表裏一体、この世にとどまる色としては、縹色なのである。(Ⅳ)緑が消えて、青になり、青が消えて緑になる。どこかで次元がすりかわるような不思議である。

c 青い色は、私たちがこの目でみるかぎり空と海の色である。あの大海原の群青も、澄みわたる空の水浅黄^{みずあせぎ}も、手にとることのできない色なき色³である。あの海原を染め空を彩る青という色は、どこから射してくるのか。天の彼方から射す光が三千世界を照らすとき、限りない色彩が生れる。

朝、太陽がさし昇るとき、天地は金色の光に包まれ、夜、闇が迫るとき、天地は青い幕に閉ざされる。この大自然のジュンカンは、光に近い色は黄色であり、闇に近い色は青であることを私たちに教えてくれる。この黄色と青こそは、あらゆる色彩の両極をなす二原色であり、その間に無量の色彩が存在する。(V)

私たちが草木から色を染め出していることも、d この自然のごく一部分の出来ごとであり、その中に、どんな些細な現象であれ、神が自然に托して私たちに示している秘義がかくされていると思うのである。

(志村ふくみ『色を奏でる』による)

問一 傍線部「より深い真実」とあるが、どういうことか。その説明として最適なもの¹～⁵から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は19。

① 緑が、自然界に単独で存在するままでは、色として染められないということは、自然界の中でしか生きられない人間の限界を表しているということ。

② 緑が青と黄の掛け合わせでしか染められないことによって、人間が、緑の色を持つ植物をはじめ、自然を大切にしようという気持ちを抱くこと。

③ 緑の染め方を知ることによって、人間に自然の秘密を知る力が備わった結果、人間は自然界に存在しないものを生むことができるようになったということ。

④ 緑は、青と黄のかけ合わせによって生れるが、青と黄との間には無数の色が存在するので、色のかけ合わせによって、無限に多数の色を染めることができるということ。

⑤ 緑が、移ろいゆく生命の象徴の色であり、色彩の両極である黄と青を合わせ持っているということを知るように、色によって自然や人間の世界の不思議を教えられるということ。

問二 傍線部2「生命の尖端」とは、ここではどのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は20。

- ① 緑は、葉の色として、樹木のもっとも先の部分に現れているということ。
- ② 緑は、とどまることのない生命をもっともよく象徴する色であるということ。
- ③ 緑は、自然の命ということから、ほかの色より先に連想される色であるということ。
- ④ 植物でも人間でも、緑は、生命のもっともよく目立つ部分となっているということ。
- ⑤ 緑は、青と黄をかけ合わせて生れる、人間の力が関わった新しい色であるということ。

問三 文中に「とすれば、黄とかけ合わせて生れた緑は、人の手をかりて生れた自然の色である。」という一文を入れるのに、最適の箇所はどこか。次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は21。

- ① (I)
- ② (II)
- ③ (III)
- ④ (IV)
- ⑤ (V)

問四 空欄 A と B に入る語の組み合わせとして最適なものを、次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は22。

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| ① | A | 彼岸 | B | 此岸 |
| ② | A | 自然 | B | 人工 |
| ③ | A | 神 | B | 人間 |
| ④ | A | 理想 | B | 現実 |
| ⑤ | A | 瞬間 | B | 継続 |

問五 二重傍線部 i「ヒタす」と二重傍線部 ii「ジュンカン」の片仮名を漢字にせよ。解答用紙(その1)を使用。

問六 空欄 a b c d に入る語の組み合わせとして最適なものを次の①～⑤から選び、その記

号をマークせよ。解答欄番号は 23。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | a | つまり | b | もし | c | ところが | d | もちろん |
| ② | a | すなわち | b | たとえ | c | しかも | d | じつは |
| ③ | a | なぜなら | b | けれども | c | まして | d | たしかに |
| ④ | a | だから | b | つまり | c | じつは | d | すなわち |
| ⑤ | a | しかも | b | そして | c | もちろん | d | おそらく |

問七 傍線部 3「色なき色」とは、どういうことか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は 24。

- ① 時間の経過とともに変化する安定しない色であるということ。
- ② 広い範囲の中で微妙に色合いが変わっている色であるということ。
- ③ 人間の手が加わっていない大自然そのままの色であるということ。
- ④ 空や海じたいが物質として青い色を持っているわけではないということ。
- ⑤ 空や海が広大であるため世界が青一色に染まり、ほかの色が見えなくなるとのこと。

問八 この文章の表題として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 神と自然
- ② 自然の色
- ③ 緑という色
- ④ 染色の秘密
- ⑤ 植物染料の不思議

以下の問題は日本文学科の受験者のみ解答すること。

四 次の文章を読んで、後の問に答えよ。遣唐使として唐に留学している主人公は、美女と恋仲となるが、名も正体もわからない彼女を「ものの変化」かと疑う。主人公の帰国の日が迫るなかで、二人が歌を詠み交わす場面である。

二十日余りになりて、御前の牡丹の盛りに咲き満ちたるを、所柄は並ぶべうもなくめであへる。げにきらきらしう、花やかなるかたは、をかしき花のさまを、一枝折りてまかでぬれど、例の夕暮は、いづこをはかどなく浮き立つ心のみまさりて、ながめぬたる空の気色さへ、すこし曇らはしく、むらさめうちそそぐ宵の間に、ほのめきそむる郭公の初音は、いづれの国境にも変はらざりけり。

(男) ほととぎすなれをぞたのむむらさめの古里人は問ひも来ぬ世に

ただししばかりに晴れゆく星の紛れに、例の戸を押し立つる。影は見ねど、いとゆるきはなかなかなることのみ多かり。

(女) 「しのばるる古里人は問ひも来で厭ふ雲居の鳥ぞあやなき

うとましかるべき夢の通ひ路の、度さへ重なる罪避り所なきも、残りなき心地する日敷の程に催さるるも、思ひ出ではまして恐しうや」

と、理りばかりは、かたみにつつましかるべけれど、げに忍ぶることは負けにけるにや、ものの変化にても、重き心にはあらざるべし。ただ、とにかうにも、ゆくへなき A のはかなきを恨み尽くせば、

(女) 「こよひぞいとかう浅き心の程を見えながら、朝の雲の名ばかりを隔てむとにはあらねど、前の世かけてまことは深きゆゑもあらはれなば、憂き世のまどひに乱れにし心誤りも、いとど逃れ所なく、恥づかしかるべきつつまじさを思ふにこそ、さまざまま物憂き名乗りなれど、わざとも晴るけやらすば、なかなか心誤りの咎も重なるべうやと、思ひ悩むものを。いま思ひ合はせられなむ」

とつれなけれど、屋折りつる花の、手に当たるをまさぐりつつ、

(女)「さらば、この花の枝にてや、そことは見えむ。尋ね出でてうとまれなむこそ」
とさすがにうち笑ふけはひまで、なほ身にしむふしのみまをさるぞ、あぢきなかりける。

みじか夜の鐘の音は、鳴く一声よりも程なく紛れぬれど、「さらば、この一枝やいづこに見つけむ」と、又今朝より思ひ添ひぬれば、知らぬ野山にもあくがれまほしきに、今朝しも朝政あさまつひりていと疾とうはじまりて、たびたび召さるれば、急ぎまゐる。

(「松浦宮物語」による)

(注)

* 所柄：牡丹を愛する国柄で

* いづこをはかどなく…どこを目当てというのでもなく

* げに忍ぶることは負けにけるにや、ものの変化にても、重き心にはあらざるべし…なるほど思いの強さに堪え忍ぶことに負けてしまったのであろうか、「ものの変化」であるにしても、落ち着いた心ではいられないのであろう。

* 朝の雲の名：楚の懷王が夢の中で契りを結んだ仙女が、去るにあたって「朝は雲となり、夕べは雨となり、朝な夕な、こちらに参ります」と述べたという故事をふまえた表現。

* 前の世かけてまごとは深きゆゑもあらはれなば…前世から引き続いて本当は深い因縁があることまでわかってしまったら。

* 心誤り：過失

問一 傍線部ア「まかで」とはどこから「まかで」たのか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

- ① 御前
- ② 国境
- ③ 古里
- ④ 例の戸
- ⑤ 野山

問二 傍線部イ「なれ」とは何を指すか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

- ① 主人公
- ② 牡丹
- ③ ほととぎす
- ④ むらさめ
- ⑤ 古里人

問三 傍線部ウ「影は見ねど、いとしるぎ」はどのようなことを表しているか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 28。

- ① 影を落としてはいけないけれど、彼女の姿形は白く浮かび上がっているという意味
- ② 姿形は見えないけれど、薫りで彼女がいることがはつきりわかるという意味
- ③ 彼女はそこにいないけれど、その面影はありありと目に浮かぶという意味
- ④ 彼女の姿は見えないけれど、そこにいるという合図があったという意味
- ⑤ 彼女が現れないけれど、それは全く予想通りのことであるという意味

問四 傍線部エ「雲居の鳥」とはほととぎすのことだが、同時に詠み手の女のことを指しており、その素姓を暗示している。この表現から彼女はどのような素姓の女であると考えられるか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 29。

- ① 亡霊
- ② 田舎育ち
- ③ 賤しい身分
- ④ 高貴な身分
- ⑤ 人妻

問五 空欄

A

に当てはまる語として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

30。

① うどんげの花

② ほととぎす

③ おしどり

④ やまどり

⑤ かげろふ

問六 傍線部オ「いとど」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

31。

① 一度に

② たいへん

③ 最後に

④ いよいよ

⑤ いったん

問七 傍線部力「思ひ悩むものを」とは何を悩んでいるのか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄

番号は

32。

① 男との別れが迫り、募る思いをどうしたら断ち切れるかと

② 道ならぬ二人の仲がもし世間に知られてはどうしようかと

③ 何とかしてこのまま男と別れずに、逢瀬を続ける方法はないかと

④ 名乗らないままにいるために、男に物思いをさせる罪を増やすかと

⑤ つれない男との避けられない別れの苦しみをどうしたら晴らせるかと

問八 傍線部キ「なむ」の文法的説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 33。

- ① 強調の係助詞
- ② 希望の終助詞
- ③ 推量の助動詞の終止形
- ④ 推量の助動詞の連体形
- ⑤ 完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の終止形

問九 傍線部ク「尋ね出でて」と「なむこそ」とは、どういう気持ちを表しているか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 34。

- ① 花の枝の在処を見つけ出す苦勞を、面倒に思われることを恐れる気持ち
- ② 自分の隠れ家を探し当てられて、男に幻滅することを恐れる気持ち
- ③ 花の咲く場所を探して、男が人々に嫌われることを恐れる気持ち
- ④ 男に問い詰められて、困惑させられることを恐れる気持ち
- ⑤ 自分の正体を知って、嫌われることを恐れる気持ち

問十 この場面の季節は何か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 35。

- ① 春
- ② 夏
- ③ 秋
- ④ 冬
- ⑤ 新年

